

大雨が降った時に身を守る行動をとるために

～熊野川中学校で防災授業を行いました～

～紀南河川国道事務所～

地域の防災力向上のための取り組みの一環として、新宮市立熊野川中学校で防災授業を行いました。開催は今回で3回目となります。

平成23年の紀伊半島大水害や令和元年8月の台風第10号といった身近な災害を振り返りながら、台風が近づいている時、自分たちの身を守るため、いつ、どのような行動を起こせばよいのか、そのために普段から準備できる事は何か、生徒の皆さんと紀南河川国道事務所の職員と一緒に考えました。当日夕方にはNHKでその様子が放送されました。

- 日時: 令和元年12月4日(水) 13:30～15:30
- 場所: 新宮市立熊野川中学校(全校生徒23名・地域住民約10名)
- 主催: 紀南河川国道事務所



職員による概要説明

- ・熊野川の雨の降り方
- ・台風の進路と傾向
- ・雨の量と河川の水位
- ・行政の降雨対策
- ・情報の入手の方法
- ・事前避難の重要性
- ・平時から心がける事



ワークショップ形式での 班別討議

- ・台風が接近した時どこにいた？
- ・避難したきっかけは？
- ・どこに避難したらいい？
- ・普段から準備することは？



- 討論テーマ① 皆さんが住んでいる地区でどのような災害がありましたか
- 討論テーマ② 今後大雨が降ったときに、自分・家族・地域の人を守るためにどうしたら良いだろう

討論した内容発表

停電や断水が起きて怖かったです。

地域としてどう動くかを事前に決めておくことが大事です。



NHKの放送「ギュギュッと和歌山」

地元の中学生在が水害から身を守る方法を考える授業が行われました。



授業を受けた生徒の感想

- ・台風が来る前から避難場所を考えておくなどの備えが大切だと分かった。
- ・地域の方との情報共有を行い、災害時には少しでも被害を減らしたい。
- ・学んだことを活かして、早めに避難し多くの情報を得て災害の状況を知ることが大切だと感じた。
- ・平成23年台風12号の際の写真を見て、こんなに浸かっていたとは思っていなかったため驚いた。
- ・地域の方と一緒に勉強すると昔の熊野川の様子や熊野川のことを教えてもらった。
- ・まだ家族で防災について話し合ったことはないが、事前に避難場所を決めておこうと思った。
- ・地域の方と防災について学び、防災意識を高め合って連携を取れるような取組を今後もしていきたい。

【問合せ】国土交通省近畿地方整備局 紀南河川国道事務所 調査課
〒646-0003 和歌山県田辺市中万呂142 TEL 0739-22-4564(代表)

水防災意識社会
再構築ビジョン



命を守る行動考える

熊野川中で防災授業

国交省



地域住民らが見守る中、災害発生時の行動を考える生徒ら
＝4日、新宮市立熊野川中学校

国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所は4日、新宮市熊野川町日足の市立熊野川中学校（吉田元紀校長）で「大雨が降ったとき、命を守る行動を考えよう」をテーマに、公開防災授業を実施した。同校生徒23人ほか地域住民らが参加。大雨に伴う水害時に取るべき行動などについて討議を行い、災害に対する認識を深めた。

防災授業は今年で3回目の取り組み。国内有数の台風常襲地である紀伊半島において、有事の際にどのようなタイミングでどのような行動を起こせばいいのかなどを考えるきっかけづくりとして実施している。

授業では、同事務所の

熊野新聞 (1)面

令和元年十二月六日(金)掲載

熊野川中で防災授業

新宮市熊野川町日足の2800mで、日本の平均約1.6倍、標高や国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所が一変して危険な場所に約所が一入雨降ったとき、命を守る行動を考えよう」と題し、防災授業を行った。今年で3回目。全学年生徒23人が出席。紀伊半島は国内有数の台風常襲地であり、生

地域住民も討議に参加



講話や住民の意見を参考に生徒が討議

大雨が降った時どう身を守るか

の避難を心がけ、洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域図等を参照し、地域にどんなリスクがあるか確認し、状況にあった安全な選択をして命を守る最善の行動をとるよう話した。

続いて生徒は4班に分かれ、事前アンケートに台風災害発生時の行動や気付き（何をきかす）にどこに避難したか、自かたで、怖かったことなど、をふせんに記し、地域の図面に貼って、災害時に自分・家族、地域の人ですべきことを考え、村誌に記し整理表に貼った。今年では初めて地域住民も討議に参加した。

生徒は講話や住民の意見を参考に話し合い、班ごとに結果発表。有事に命を守るためには、家族と避難場所を話し合う、はぐれた時の待ち合わせ場所を決める、避難の呼び掛け、車のない人を避難所へ連れて行く、スマホの充電確認、非常食の共有、地域の人の前を避え、あいさつしてコミュニケーションをとり仲良くする、などの意見があった。

玉木調整官は「東海大雨が降り洪水が来る状況をイメージしてもらい、これから自分がどう行動をとるか、考える必要がある」と話した。討議したことを家族や地域でも話し合おうという話した。

玉木調整官は「東海大雨が降り洪水が来る状況をイメージしてもらい、これから自分がどう行動をとるか、考える必要がある」と話した。討議したことを家族や地域でも話し合おうという話した。



討議結果を班ごとに発表し講評を受けた

紀南新聞 (12)面

令和元年十二月七日(土)掲載

玉木秀幸・地域防災調整官らが、大雨による被害が発生する仕組みや行政の対策、避難のための情報について講話。命を守るために▽行政から発表される避難情報だけを待つのではなく、災害の状況によっては避難の判断をする▽危なくなる前に避難する▽状況にあった避難をする▽などが大事と説明。「家族と災害時の行動や備えを話し合っ」と呼び掛けた。

011(平成23)年の紀伊半島大水害時に取った行動や気付き、怖かったことなどをまとめ、「どこにどこに逃げたか」がけにどこに逃げたか」を発表を終え、玉木地域防災調整官が「地域としてどう動くかを事前に話しておくとが大事。普段から考えておくことが重要。早く動くことの方がいいのでは」と話した。講話は講話や住民の意見を参考に話し合い、班ごとに結果発表。有事に命を守るためには、家族と避難場所を話し合う、はぐれた時の待ち合わせ場所を決める、避難の呼び掛け、車のない人を避難所へ連れて行く、スマホの充電確認、非常食を共有、地域の人の前を避え、あいさつしてコミュニケーションをとり仲良くする、などの意見があった。

玉木調整官は「東海大雨が降り洪水が来る状況をイメージしてもらい、これから自分がどう行動をとるか、考える必要がある」と話した。討議したことを家族や地域でも話し合おうという話した。